

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成26年2月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成26年1月分(平成25年12月30日～平成26年2月2日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	5,539	9.63	10.70	↑	11	ヘルパンギーナ	2	0.01	0.02	
2	RSウイルス感染症	321	0.90	1.21	↘	12	流行性耳下腺炎	119	0.33	0.60	↗
3	咽頭結膜熱	338	0.95	0.45	↘	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	429	1.21	1.24	↘	14	流行性角結膜炎	71	0.75	0.78	↘
5	感染性胃腸炎	3,827	10.75	10.12	→	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	437	1.23	1.55	↘	16	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.01	
7	手足口病	14	0.04	0.19	↓	17	マイコプラズマ肺炎	7	0.07	0.22	
8	伝染性紅斑	3	0.01	0.16		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	142	0.40	0.48	↘	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	17	0.16	—	↑
10	百日咳	1	0.00	0.05							

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成26年1月分(1月1日～1月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	48	2.09	2.12	↘	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	4.81	5.60	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.91	0.67	↗	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	0.33	1.28	
22	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.48	↗	26	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
23	淋菌感染症	37	1.61	1.27	↗	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.10	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 発生記号(前月と比較)

#### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 インフルエンザ(265件 → 5,539件)  
感染性胃腸炎(ロタウイルス)(3件 → 17件)

- 急減疾患 手足口病(41件 → 14件)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～27	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	31	結核(31)〔西部保健所(1), 西部東保健所(2), 東部保健所(3), 広島市保健所(18), 呉市保健所(4), 福山市保健所(3)〕
三類	0	発生なし
四類	5	E型肝炎(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(4)〔広島市保健所(2), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕
五類全数	10	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所〕, バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所〕, 急性脳炎(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, 梅毒(2)〔福山市保健所〕, 麻しん(3)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(2)〕

## 3 一般情報

### (1) 麻しんについて

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、一般に小児期に多い急性の感染症で春から初夏にかけて流行がみられますが、今年、全国では平成26年第1週(平成25年12月30日から平成26年1月5日)から第4週(平成26年1月20日から1月26日)までに、昨年同時期の報告数(18例)を大幅に上回る46例が届けられています。

広島県では1月に3例(平成25年は年間1例)の届出がありました。

**麻しんは予防接種で防げる病気です。今後、流行する可能性がありますので、早めの接種をお勧めします。**

病原体	麻しんウイルス(人から人へ感染する感染力の強いウイルス)
感染経路	・「空気感染」が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」及びウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、免疫力のない人が感染するとほぼ100%発症します。
症状	・感染すると、約10～12日間の潜伏期ののち、発熱や咳、鼻水など、風邪のような症状が現れます。数日すると、38℃以上の高熱と全身に赤い発しん(ブツブツ)が出現します。 ・気管支炎、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。 ・合併症がなければ、主な症状は7～10日でほぼ回復しますが、発しんは茶色くなってしばらく残ります。
治療方法	・特別な治療方法はなく、症状を軽減するための処置(対処療法)が行われます。
予防方法	・麻しんの予防に最も有効な方法は、麻しんのワクチンを接種し、免疫をあらかじめ獲得しておくことです。 <b>・市町の実施する定期予防接種の対象者は、早めに予防接種を受けましょう。次に該当する方は、定期予防接種として無料で接種を受けることができます。</b> <b>(第1期)1歳になったらすぐに、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンの接種を受けてください。</b> <b>(第2期)小学校入学前の1年間のうちに、2回目の予防接種を受けてください。</b>
その他	・周りに麻しんに罹った人がいて、風邪のような症状や熱が出た場合は、医療機関に電話で「麻しんに罹っているかもしれない。」と伝え、早めに受診しましょう。

### (2) 子ども予防接種週間について

**平成26年3月1日(土)から3月7日(金)は子ども予防接種週間です。**

**4月からの入園・入学に備え、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう!**

- 予防接種に関する質問は、かかりつけ医に御相談ください。
- 予防接種が受けられる医療機関については、お住まいの市町の予防接種担当課へお問合せください。
- 予防接種を希望される方は、医療機関へ事前に予約しましょう。

### (3) インフルエンザの発生状況について

広島県感染症発生動向調査による今シーズン(平成25年/平成26年)のインフルエンザの定点当たりの患者報告数は平成26年第5週(平成26年1月27日から2月2日)までは増加が続いていましたが、第6週(平成26年2月3日から2月9日)の定点当たりの患者報告数は16.70(患者報告数1,921人)となり、前週の報告数(定点当たり19.04, 患者報告数2,190人)よりも減少しました。全国では、34都府県で前週の報告数よりも減少がみられましたが、定点当たり30.72(患者報告数151,829人)と、国の警報発令基準(定点当たり30.0)を上回っていることから、**引き続き「手洗いや咳エチケット」などの予防対策をお願いします。**

○なお、最新の発生状況等については、こちらのホームページを御覧ください。

広島県「インフルエンザの流行状況(注意報を発令しています)」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-kansen-wadai-zyouhou-inf-zyouhou.html>